



慶應言語学 コロキウム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

言語理論における 真の説明の探求

講師：中島 崇法 氏(東北大学)、林 慎将 氏(九州大学)
大宗 純 氏(関西外国語大学)、杉本 侑嗣 氏(ミシガン大学)
日時：2021年7月31日(土)・8月1日(日) 10:00-16:00
※オンライン開催(Zoom 使用)、受講料無料

近年の生成文法理論では、人間言語の諸特性に対する真の説明(genuine explanation)の探求が重要な研究課題として提起されている。本コロキウムでは、言語理論における真の説明の探求とは何か、真の説明は現在どの程度まで達成されたのか、そして今後どのような研究課題が残されているかを明らかにする。

コロキウム一日目には、第161回日本言語学会(2020年11月)やThe 39th meeting of the West Coast Conference on Formal Linguistics(2021年4月)におけるノーム・チョムスキー氏による講演のチュートリアルをおこない、真の説明をめぐる主要論点を整理する。これらの講演では、大併合(MERGE)が提案されるに至った経緯が説明されるとともに、その帰結としてシーケンス形成やコピー形成などの様々なメカニズムが提案されているが、これらの概念的・経験的根拠を正確に把握するにはいくらかの背景知識を要する。そのため第一日目は必要な概念整理を図るとともに、今後の理論的・経験的研究を発展させる上での基礎を提供する。

コロキウム二日目には、一日目に議論した枠組みをもとに各講師が進めている研究を紹介する。とりわけ、真の説明を追求するうえでどういった点がさらなる研究課題として残されているのか、またどういった点が解決策がありえるのかを、各講師の個別研究を土台に模索したい。

第一日目

- ・発表1：極小主義理論の基礎仮説群(林慎将)
- ・発表2：併合から大併合へ(杉本侑嗣)
- ・発表3：理論的帰結と分析(I)：シーケンス形成と等位接続構造について(大宗純)
- ・発表4：理論的帰結と分析(II)：コピー形成とコントロール構文について(中島崇法)

第二日目

- ・発表1：Form Copyの適用範囲/条件について(林慎将)
- ・発表2：主語条件と付加部条件に関して(杉本侑嗣)
- ・発表3：Form Sequence and pair-MERGE(大宗純)
- ・発表4：コントロール現象の真の説明に向けて(中島崇法)

[参加申込] genbu@icl.keio.ac.jp 定員：200名(先着順) 申込締切：7月29日(木)
・氏名、所属、職位(学部・専攻・学年)を明記の上、メールでお申込ください。
・申込者へは、事務局より別途オンライン開催情報を返信いたします。